

## 農産物と農薬の「都市伝説」?

前回、農薬の検出状況のことをおはなししましたが、今回はよく耳にする、農薬に関する何十年来の“伝説”について解説したいと思います。

### ● 虫食いなので農薬が少なく安全?

虫がついていたり、虫食いの農産物に対して「農薬をかけないから」と農家が話することがありますが、それは手を抜いた栽培や選別に対する言い訳です。プロならば、最低限の農薬や肥料を適正に使い、虫食いや病気の無い、品質の良い農産物を栽培できるのが当たり前です。今の農薬は適正に使用すれば収穫した際の安全性には全く問題ありません。ただ、洗えば落ちる程度の小さな虫や土汚れは容認してあげたいものですね。

### ● 農薬を洗い落とせる洗剤?

植物の表面はワックス層といってロウ物質が表面を保護しています。農薬は多くが油に溶けやすく、油であるワックス層に入り植物を守ります。そこで効果を示しながら徐々に光や熱、植物の生理作用で分解され、収穫時には問題ない状態になります。ワックス層は洗剤などで簡単にとれるもの

ではありません。無理にワックス層をこすって取り除いたとしても、同時に農作物としての価値がなくなっていることでしょう。

### ● 殺虫剤は虫に効くのだから人間にも悪い?

昆虫と哺乳類は体の構造や生理状態が全く異なります。殺虫剤はこの違いに着目して、昆虫には効果があり哺乳類には影響が少ない化学物質を選抜して製品としています。過去には両方に強い効果のある農薬もあったことと思いますが、それらはすでに登録が抹消され、使われません。農家の方が「農薬散布で体を壊した」と経験談を語る際は、かなり昔の記憶を言っているか、保護対策をしていなかったためと思われる。

### ● 農家は自家消費用と出荷用をつくり分けている

収入のための出荷作物を大量につくると、自家消費のため色々な作物をつくることは、同じ農家がやることでも管理内容が違って当たり前です。出荷する作物は栽培記録等の管理もしっかりしますが、自家消費の作物はそのようなことは不要なので、農薬の使用等も管理されていないでしょう。「安全に気を使って分けている」というのは勘ぐり過ぎではないでしょうか。

このように、多くの“伝説”が不確かな情報や想像、農家側の方便から発しているようです。氾濫する情報には裏もある、ということも考えて受け入れたいものですね。

2017年  
5月2週  
(19号)

東海コープからの

おいしくって、安全なおはなし

